

## 地域の会

～ 9月定例会・10月定例会 概要 ～

「地域の会」では、発電所そのものの賛否はひとまず置いて、安全運転に係る事業者や行政当局の必要にして十分な情報提供に基づき、発電所の安全について状況を確認し、地域住民の素朴な視線による監視活動を行うとともに、必要な提言を行うことを目的に、平成15年5月に発足、設置趣旨に沿った様々な活動を行っています。

柏崎刈羽原子力発電所の透明性を確保する地域の会  
第197回定例会（情報共有会議）



『情報共有会議』は年に一度開催する会議。国や立地自治体の代表者を招き、委員と意見交換を行う。昨年に引き続き、花角知事・櫻井柏崎市長・品田刈羽村長をはじめ、原子力の規制や防災を担う国の担当者、東京電力HD（株）小早川社長が出席した。公開で行われた会議には多くの傍聴者や報道関係者が来場し関心の高さがうかがえた。（委員、オブザーバー、傍聴者含め約160名が参加）



第197回定例会（情報共有会議） 柏崎市産業文化会館 ※会議の内容は次号で紹介します

今後の「地域の会」定例会の開催案内 ※開催日時や場所は変更になる場合がありますので、詳しくは事務局にお問い合わせ願います。

第198回定例会

日時：2019年12月4日（水）18:30～20:50  
場所：柏崎原子力広報センター 2階 研修室

第199回定例会

日時：2020年1月8日（水）18:30～20:50  
場所：柏崎原子力広報センター 2階 研修室

会は公開で行われています。傍聴はお気軽にお越し下さい。

地域の会の活動はホームページでご覧いただけます。 <http://www.tiikinokai.jp>

## フリートーク ① 柏崎刈羽原子力発電所見学を終えた感想・意見 ② 核燃料サイクル等勉強会について質疑応答ほか



前回定例会以降の動きについて各オガバーから報告を受け、質疑応答を行った。会議後半は、8月31日に開催した柏崎刈羽原子力発電所見学について、参加委員が感想、意見を発表した。さらに、前回定例会時に資源エネルギー庁柏崎刈羽地域担当官事務所の渡邊所長より説明を受けた「核燃料サイクル及び高レベル放射性廃棄物の最終処分についての」質疑応答などを行った。

### 〔前回定例会以降の動きについて〕

**Q** 屋外重機吊り下ろし作業における油漏れ事故の件は、2カ月も経過しているのに説明が後回しにされるのは腑に落ちない。口頭でよいので答えられるところがあれば教えてほしい。

### 東京電力

特重施設(テロ等の対策設備)であり、場所等について申し上げることはできないが、重機の吊り方に問題があり発生したものである。原因と対策については検討中であり、取りまとめ次第お示しさせていただく。

### Q

福島第一原発には事故前から共用プールがあったということだが、柏崎刈羽原発にも共用プールはあるか。

### 東京電力

柏崎刈羽には共用プールはないが、それぞれのプラントで増容量の対応を取っているため、福島第一と同じような対策は取っている。

### Q

柏崎刈羽は増容量してあるというのはリラッキング(※)のことか。福島はリラッキング工事をしたことがないのか、それとも何回もしたが満杯になって共有プールを作ったのか。

※リラッキング：貯蔵プールの大きさ自体を変えることなく、ラック(収納棚)

### 東京電力

の間隔を狭める改造をすることで、使用済燃料の貯蔵能力を増やすこと

### Q

リラッキングを行うと床荷重や空間の問題が出てくるが、検討の際、柏崎刈羽では建設中の時期ということもあり、それらの問題を考慮したうえで対応することができた。福島第一の場合は検討を進める中で、必要な容量を確保することができず、そのうえ敷地内で燃料を保管するために共用プールを選択し、建設した。

### 東京電力

非化石電源の確保については、2030年断面で発電電力量の約4割を非化石電源(再エネ

と原子力)で対応していくことを記載させていただいている。見通しについてはしっかりと計算する必要があるが、2000~3000万kWだけで足りるかどうかは我々の試算の中でも、まだはっきりと決まっていない。

### 〔柏崎刈羽原子力発電所見学について参加委員からの報告・感想〕

● 昨年6月にも視察をさせてもらった。電源車、ポンプ車が置いてあるところがきれいに舗装され、広くなっており、新しいポンプ車も増え設備が充実してきたと感じた。また、管理区域の通路にすべて単管足場が組まれ、詳細な部分に渡って安全対策工事がされていて感銘を受けた。

● 「いざ事故が起きたら東電の職員が消防車で水をかける」という説明映像を見たが、そこまで危険なこととして動かしなさいといけないのかと改めて感じた。動いていない原発の見学なので迫力は感じなかったが、動いていたらかなりの迫力があつたと思う。福島の反省を踏まえた工事が相当進んでいると感じた。しかし前提条件を



● 超えたものに対しての対策はない。いくら頑張つて施設を作っても汚染させられた土壌はどうするのか。私たちは戻ってこられるのか。住んでいる住民はそこまで考えて心配する。そこをよく考えて対策してほしい。

● 敷地いっぱい設備がされ、通路が複雑で迷路のようだった。通路には扉がいくつもあり、とにかく配管であふれている。原発というのは非常に巨大で複雑な仕組みになっておりヒューマンエラーが生じやすい危険性を感じた。

● 説明は丁寧だったが、もし津波がきたら消防車のところまで移動は間に合うのか。労働環境は大丈夫なのか気になった。

● 消防車、電源車等が分散配

置され、ダクトの曲がり部には地震対策と思われるダンパーが付いていた。これだけ設備面での対策をしたので、あとは運用面もしっかりやっていただきたい。

● 安全の多重化はされていたが、設備の機能がきちんと動くのか。関わる人たちがどれほどの確に対応できるのか、実践と訓練を重ねていただきたい。

● 免震重要棟は2年前に耐震不足とされ、自主設備にするといっていた。しかし昨年から使えたら使うという説明が変わっている。現状に変化がない中で、使わないといっていたものを、使いますという説明に変えているのが不安に感じられて仕方がない。安全第一と常日頃言っているのに会社として本当にそう思っているのか。

● 継続して施設を見学していることは大切と感じた。いろいろな対策が整備され、信頼感が増していると感じた。電源を喪失しても蒸気の力で注水ができる代替注水設備を目にするのができて良かった。免震重要棟については、使えるものは使うという現場の柔軟な対応を取る意識や体制を逆に心強いと感じた。

### 「核燃料サイクル及び高レベル放射性廃棄物の最終処分について質疑応答」

**Q** 最終処分場が決まっていない。核燃料サイクルが完成したから原発を再稼働させるというならわかるが、完成もしていないのに再稼働させている。見通しはどのようなのか。

**エネ庁** 今日、明日というのは実際問題として無理ではある。再処理工場等はまだ建設中の部分もあり、最終処分場については場所の選定も始まっていない。原発が動けば廃棄物や使用済核燃料は溜まっていくが、国として目指すところは核燃料サイクルである。

**Q** サイクル以外に別の方法はあるか。

**エネ庁** 「ワンスルー」といって1回の使用で廃棄する方法があるが、これだと容量も大きくなり放射能が減衰するまで長い時間がかかる。まだ使えるのに処分するというデメリットもある。

**Q** 高速炉サイクル、もんじゅは失敗しているのか。それをどう考えているのか。

**エネ庁** 今まで、もんじゅ、高速増殖炉など失敗したということになっているが、引き続き、その経験を踏まえた上でさらに核燃料を有効に使える新しい原子炉を開発していく。

**Q** 地層処分に至るまでに何兆円もの費用がかかるが、それをもつてしてもまだ原子力は本当に安価なエネルギーだと考えているのか。

**エネ庁** これから再処理にかかるところで新たに何かすることが出てくるかもしれないが、現状では原子力は大変安価な電源と考えている。

**Q** 科学的特性マップが発表されてからの進捗について。今後どのように適地を選定していくのか。

**エネ庁** 公表以来、いろいろな地域で説明させていただいた。今後、自治体から調査に入ってもよい、または当庁から調査させてほしいとなれば詳細調査を進めていくことになっているが、現時点ではわかっている。

### 「委員からの意見」

● 地層処分には賛成したくない。諸外国もそうだが、日本の国土で地層処分をできるところがあるのかどうか。数万年の中には地殻変動も必ずある。ガラス固化体は数万年持つといわれているが、本当に持つのか。国民と詰めた議論をするのはまだ早いのではないかと。もう少し国が方向性をきちんと作らなければ議論もできないのではないかと。

● 核燃料サイクルは難しい問題だと思っている。100年後の技術者の展望に期待し、サイクル問題は止めるのではなく引き続きやるのが大切。受け入れる地域には国からの相当な支援で日本、世界一発展するような条件を付けてもらいたいと思う。

## 令和元年度 新潟県原子力防災訓練について



前回定例会以降の動きについて各オブザーバーから報告を受け、質疑応答を行った。また今定例会では、11月に行われる新潟県原子力防災訓練について、県・市・村からそれぞれ訓練の内容についての説明があり、委員からは訓練について様々な要望や意見などが出された。

### 〔前回定例会以降の動きについて〕

**Q** 福島第一の排気筒の解体吊り下げ作業について。トラブルが頻発しているのは事故のあった原発だからなのか、事故がない原発でも廃炉の際にはこのよ

うなことが想定されるのか。

### 東京電力

福島第一では、事故に伴う線量上昇による遠隔操作など、初めて取り組む作業が多いことも要因の一つと考えている。事故が起きていない発電所の廃炉については、福島第二が廃炉を決定しているが、福島第一の5、6号機と合わせて当社として通常の廃炉作業は初めての取り組みになるので、先行する電力や海外の知見などを踏まえて計画的に実施していきたいと考えている。

### Q

新工ネ・省工ネ関連の太陽光発電設備の廃棄費用に関するワーキングで、「ソーラーパネルを廃棄するための積み立てを担保する制度」とあるが、どの程度の大きさのパネルを想定しているのか。

### エネ庁

事業として太陽光発電をしていくところがあるが、太陽光事業を

撤退する際の廃棄費用を見込んで事業を進めていくことを検討している。

### 〔新潟県原子力防災訓練について〕

#### 新潟県原子力防災訓練について

#### 新潟県原子力防災訓練

日にち

令和元年11月8日(金)、

9日(土)

訓練項目

- ・緊急時モニタリング訓練
- ・PAZ内住民の避難訓練
- ・UPZ内住民の屋内退避訓練等

### 〔質疑応答〕

### Q

前回の訓練から時間が経っている。定期的に防災訓練を実施してほしい。

### 新潟県

今後は毎年訓練を実施したいと考えている。

### Q

安定ヨウ素剤緊急配布・予防服用訓練というのは、PAZ(5km圏内)を対象としているのか。

### 柏崎市

PAZが対象。住民避難訓練に参加される方を対象とする。

### Q

PAZの住民にはすでに安定ヨウ素剤が配布されている。配布されたものを持っていくのが訓練になるのではないか。

### 柏崎市

PAZの住民の方には事前配布されているが、今回の訓練では、すぐに安定ヨウ素剤を見つけれなかったり、しまった場所を忘れたりということも想定し、持っているという状況に対応した訓練。今回は配る側の訓練も実施し、今後具体的な内容について詰めていきたいと考えている。

### Q

県は、今回の訓練はどのくらいの規模の人数で行おうと考えているか。それを受けて市・村は具体的にどのくらいの人数を考えているか。また、スクリーニングは、UPZ(5km圏内)が対象で

原則的にPAZは必要ないのかもしれないが、PAZの住民もお願いしたいが、今回は考えていないのか。

### 新潟県

人数については現在調整中で申し上げられないが、前回の平成26年度は200人の住民が参加。今回はそれより多い人数で調整している。スクリーニングについては、今回、県としてマニュアルを作り、それに沿って基本的な事項を行うが、今回PAZについては考えていない。

### 柏崎市

人数については調整中。

### 刈羽村

参加者は村議会議員、20集落の区長にそれぞれ3名を目標に参加を依頼している。人数は調整中。

### Q

前回の訓練ではバスの移動はスムーズで危機感が足りないと感じた。実際の避難では一般のほとんどの人が自家用車で避難することにな

っている。今回の訓練ではその課題を協議したのか。自家用車の参加訓練は行わないのか。

### 新潟県

前回、車を使った訓練というところでレンタカーを使った訓練を実施したが補償などの問題もあり、今後検討しなければいけないと思っている。今回は5年ぶりということではバスを使った訓練を行う。

### Q

訓練の様子は見学できるのか。

### 新潟県

訓練は公開しているので見学は自由。

### Q

保健師は参加するのか。また、今回の訓練で屋内退避とあるのが、放射線防護についての知識をどうやって普及させるのか。具体的な行動をどの程度周知した上で行うのか。

### 柏崎市

保健師の参加については検討中。

屋内退避訓練については、今月中に原子力防災に関する新たなリーフレットを作成し全戸配布する予定。それを見て訓練に参加していただきたいと考えている。

### Q

訓練についての広報はいつ行うのか。

### 柏崎市

10月20日号の広報誌で訓練の告知とリーフレットを全戸配布する。

### Q

今回の訓練費用はどこが負担するのか。

### 新潟県

国からの交付金を充てている。

### Q

県の3つの検証の結果で訓練に影響することはあるか。

### 新潟県

3つの検証のうち訓練に関わる避難委員会での避難計画の実効性の検証を行っている。基本的には避難対策と防災対策は行政が行い、検証とは関係なく訓練を行う。それを踏まえ、いろいろな課題を解決しな

から避難計画の実効性を上げるといふ作業は、3つの検証とは別に行う。

### Q

事故が起きた時に避難するためのバスについて、県とバス事業者との協議は進んでいるのか。

### 新潟県

バス事業者とは現在協議中。

### 【委員からの意見】

- 今後は、自家用車を使った訓練や突然事故が起こったということも想定した訓練を行ってほしい。
- 訓練に医療機関、例えばDMAT(ディーマツト※)や看護師、保健師、薬剤師に参加要請はない。実際に即した訓練のためにも参加要請はしておくべきではないか。
- ※DMAT:災害時に被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チーム
- 保健師には救護としてではなく原子力防災時に住民を守る役割を持って参加する計画にしてほしい。
- 放射線防護について内部被ばくをいかに防ぐかということを周知できるように意識して訓練を重ねていただきたい。
- 訓練の避難先は11月だと雪の可能性もある。考慮をお願いしたい。
- 設備やシステムについては一生懸命やっていただいていると思う。だが避難時に車で逃げるには何時間くらいかかるのか。屋内退避は何日くらいでどのようにしたらいいのか。住民としては避難のことが番気になっている。
- 訓練を重ねることで精度を上げ、継続することで範囲を広げるなど検討と実践を重ね、制度を高めたい。
- 5年ぶりの防災訓練があることを最近まで知らなかった。日が決まっているのであればもっと早くから広報をしたらいいと思う。
- 県から訓練を毎年やっていくつもりというところが聞いて良かった。テーマを決めて訓練を重ねていただきたい。
- 福井県では国が主体の防災訓練が行われていた。国主体の防災訓練が行われるよう県からも働きかけをしてもらいたい。

委員が提出した要望書に対して、関係機関より回答をいただきました。数回にわけて紹介します。

### 【新潟県・柏崎市・刈羽村に対して】

- ①原子力災害広域避難計画については、新潟県が本年3月に策定したことにより、柏崎市、刈羽村を含め三者の広域避難計画がようやく策定され、今秋には実働避難訓練も実施予定と聞いています。しかし、依然課題も多く実効性のある広域避難計画とは言えません。つきましては、三者連携のもと、「安定ヨウ素剤の配布」、「広域避難体制」、「避難経路の確保」、「三者の役割の明確化」などの課題解決を図るとともに、県民、市民、村民への丁寧な説明と意見聴取により、実効性のある広域避難計画への見直しを早期にお願いします。
- ②新潟県原子力発電所事故に関する3つの検証について、検証作業の確実な実行と、県民、特に柏崎刈羽地域への丁寧な説明をお願いします。

### 【新潟県回答】

#### ①について

広域避難計画については、市町村、防災関係機関とも十分に連携し、課題解決に取り組んでまいります。

実動訓練等の中で明らかになった課題の解決に取り組み、その結果を適宜計画へ反映することを繰り返すことにより、実効性を高めてまいりたいと考えております。

広域避難計画に変更があった場合は、必要に応じて丁寧な説明を行ってまいります。

#### ②について

引き続き、原発事故に関する3つの検証を着実に進めるとともに、検証の状況については、立地地域をはじめ、広く県民の皆様にも周知してまいります。

検証結果については、丁寧な説明を行ってまいります。

### 【柏崎市回答】

#### ①について

これまで本市が新潟県に対して求めてきた広域避難計画が本年3月に策定され、同じく求めてきた原子力防災訓練も、この秋に実施する予定です。

市としては、広域避難計画にはまだまだ多くの課題があると認識しており、残された課題の解決を図り、計画の実効性を高めていく必要があると考えます。

そのため、引き続き国・県・関係市町村及び関係機関との協議を重ね、計画の具体化を進めるとともに、訓練を通じて検証を行い、市民の皆様からもご意見をいただきながら、実効性のある広域避難計画の早期策定を目指し、取り組んでまいります。

#### ②について

3つの検証は、新潟県において行われているものでありますが、市としては、検証作業の内容を確認してまいります。

### 【刈羽村回答】

#### ①について

新潟県が作成した広域避難計画には、今後解決すべき多くの課題があると認識しておりますが、花角知事就任後から積極的に策定作業に取り組まれてきたことに一定の評価をしております。今秋に実施予定の原子力防災訓練を通じて検証を重ね、計画の実効性を高めていくことが重要であります。

今後も立地であります柏崎市と連携しながら関係市町村や国県の関係機関と協議を進めて、また地域住民の皆様ものご意見をいただきながら、計画の見直しを継続していくことが必要であると考えています。

#### ②について

新潟県が実施している3つの検証につきまして、今後も会議の傍聴を通じて、刈羽村の立場で検証内容の確認を継続していきます。



(石坂副会長)

先般数年ぶりに大規模な原子力防災訓練が実施された。U P A Z 地域に加え、外の参加者は16万人に上った。大規模な訓練は住民に対して意識付けと課題の顕在化が目的と承知した。いるが、頭かになつた課題を地道に解決する事が実効性ある避難計画実現には欠かせない。原子力防災は地域区分による初期行動の違いを始め通常の避難行動と違う面が多々複雑な面がある。そのため今回のように大規模な訓練でなく、課題解決のためにチームを絞つたり様々な日に行つたり小規模な訓練を数多く行うことが必要である。

行政側も今後訓練を繰り返すこと、課題解決のため住民側も避難計画を創り上げるといふ姿勢を持つことが実効性ある避難計画づくりには欠かせない。

編集後記